

1

解答解説のページへ

座標平面上にすべての内角が $180^\circ$ 未満の四角形  $ABCD$  がある。原点を  $O$  とし、 $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ ,  $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ ,  $\overrightarrow{OC} = \vec{c}$ ,  $\overrightarrow{OD} = \vec{d}$  とおく。 $k$  は  $0 \leq k \leq 1$  を満たす定数とする。0

以上の実数  $s, t, u$  が  $k + s + t + u = 1$  を満たしながら変わるとき

$$\overrightarrow{OP} = k\vec{a} + s\vec{b} + t\vec{c} + u\vec{d}$$

で定められる点  $P$  の存在範囲を  $E(k)$  とする。

- (1)  $E(1)$  および  $E(0)$  を求めよ。
- (2)  $E\left(\frac{1}{3}\right)$  を求めよ。
- (3) 対角線  $AC, BD$  の交点を  $M$  とする。どの  $E(k)$  ( $\frac{1}{3} \leq k \leq \frac{1}{2}$ ) にも属するような点  $P$  を考える。このような点  $P$  が存在するための必要十分条件を、線分  $AC, AM$  の長さを用いて答えよ。

2

解答解説のページへ

数直線上の点  $Q$  は、はじめは原点  $x=0$  にあり、さいころを投げるたびに以下のルールに従って移動する。 $Q$  が  $x=a$  にあるとき、

- ・ 出た目が 1 ならば  $x=a$  にとどまる。
- ・ 出た目が 2, 3 ならば  $x=a+1$  へ動く。
- ・ 出た目が 4, 5, 6 ならば  $x=0$  に戻る ( $a=0$  ならば動かない)。

- (1) 整数  $a \geq 0$  に対して、さいころを 3 回投げたとき、 $Q$  が  $x=a$  にある確率を求めよ。
- (2) さいころを  $n$  回投げたとき、 $Q$  が  $x=0$  にある確率を求めよ。
- (3) さいころを  $n$  回投げたとき、 $Q$  が  $x=1$  にある確率を求めよ。

**3**

解答解説のページへ

以下の問いに答えよ。

- (1)  $x > 0$ において、不等式  $\log x < x$  を示せ。
- (2)  $1 < a < b$ のとき、不等式  $\frac{1}{\log a} - \frac{1}{\log b} < \frac{b-a}{a(\log a)^2}$  を示せ。
- (3)  $x \geq e$ において、不等式  $\int_e^x \frac{dt}{t \log(t+1)} \geq \log(\log x) + \frac{1}{2(\log x)^2} - \frac{1}{2}$  を示せ。ただし、 $e$  は自然対数の底である。

4

解答解説のページへ

$z = \cos \frac{2\pi}{7} + i \sin \frac{2\pi}{7}$  ( $i$  は虚数単位) とおく。

- (1)  $z + z^2 + z^3 + z^4 + z^5 + z^6$  を求めよ。
- (2)  $\alpha = z + z^2 + z^4$  とするとき,  $\alpha + \bar{\alpha}$ ,  $\alpha \bar{\alpha}$  および  $\alpha$  を求めよ。ただし,  $\bar{\alpha}$  は  $\alpha$  の共役複素数である。
- (3)  $(1-z)(1-z^2)(1-z^3)(1-z^4)(1-z^5)(1-z^6)$  を求めよ。

5

解答解説のページへ

2 点  $O(0, 0)$ ,  $A(0, 2)$  を直径とする円周から  $O$  を除いた部分を点  $Q$  が動く。点  $A$  を通り  $x$  軸に平行な直線と直線  $OQ$  の交点を  $R$  とする。点  $Q$  を通り  $x$  軸と平行な直線と、点  $R$  を通り  $y$  軸と平行な直線との交点を  $P$  とする。点  $P$  の軌跡を  $C$  とする。

- (1)  $C$  の方程式を求めよ。
- (2) 正の実数  $a$  に対して、 $C$  と  $x$  軸と 2 直線  $x = a$ ,  $x = -a$  によって囲まれる図形を、 $x$  軸のまわりに 1 回転してできる立体の体積を  $V(a)$  とする。このとき、 $\lim_{a \rightarrow \infty} V(a)$  を求めよ。

1

問題のページへ

- (1) 原点  $O$ , 四角形  $ABCD$  に対し,  $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ ,  $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ ,  $\overrightarrow{OC} = \vec{c}$ ,  $\overrightarrow{OD} = \vec{d}$  とおく。定数  $k$  は  $0 \leq k \leq 1$ ,  $0$  以上の実数  $s, t, u$  は  $k + s + t + u = 1$  を満たす。

そして,  $\overrightarrow{OP} = k\vec{a} + s\vec{b} + t\vec{c} + u\vec{d}$  で定められる点  $P$  の存在範囲を  $E(k)$  とする。

まず,  $k=1$  のとき  $s+t+u=0$  から  $s=t=u=0$  より,  $\overrightarrow{OP} = \vec{a}$  となる。すなわち,  $E(1)$  は点  $A$  である。

次に,  $k=0$  のとき  $s+t+u=1$  から  $s \geq 0, t \geq 0, u = 1-s-t \geq 0$  となり,

$$\overrightarrow{OP} = s\vec{b} + t\vec{c} + (1-s-t)\vec{d}, \quad \overrightarrow{OP} - \vec{d} = s(\vec{b} - \vec{d}) + t(\vec{c} - \vec{d})$$

$$\overrightarrow{DP} = s\overrightarrow{DB} + t\overrightarrow{DC} \quad (s \geq 0, t \geq 0, s+t \leq 1)$$

よって,  $E(0)$  は  $\triangle DBC$  の内部または边上となる。

- (2)  $k = \frac{1}{3}$  のとき,  $s+t+u = \frac{2}{3}$  から  $s \geq 0, t \geq 0, u = \frac{2}{3} - s - t \geq 0$  となり,

$$\overrightarrow{OP} = \frac{1}{3}\vec{a} + s\vec{b} + t\vec{c} + \left(\frac{2}{3} - s - t\right)\vec{d}, \quad \overrightarrow{OP} - \frac{\vec{a} + 2\vec{d}}{3} = s\overrightarrow{DB} + t\overrightarrow{DC}$$

ここで,  $\overrightarrow{DQ} = s\overrightarrow{DB} + t\overrightarrow{DC}$  とおき,  $DB, DC$  を  $2:1$  に内分する点を, それぞれ  $F_1, G_1$  とすると,

$$\overrightarrow{DQ} = \frac{3}{2}s\overrightarrow{DF_1} + \frac{3}{2}t\overrightarrow{DG_1} \quad (s \geq 0, t \geq 0, \frac{3}{2}s + \frac{3}{2}t \leq 1)$$

これより, 点  $Q$  は  $\triangle DF_1G_1$  の内部または边上にある。

さらに,  $AD, AB, AC$  を  $2:1$  に内分する点を, それぞれ

$H_1, I_1, J_1$  とおくと,  $\overrightarrow{DF_1} = \overrightarrow{H_1I_1}, \overrightarrow{DG_1} = \overrightarrow{H_1J_1}$  から,

$$\overrightarrow{OP} - \overrightarrow{OH_1} = \overrightarrow{DQ}, \quad \overrightarrow{H_1P} = \frac{3}{2}s\overrightarrow{H_1I_1} + \frac{3}{2}t\overrightarrow{H_1J_1} \quad (s \geq 0, t \geq 0, \frac{3}{2}s + \frac{3}{2}t \leq 1)$$

よって,  $E\left(\frac{1}{3}\right)$  は  $\triangle H_1I_1J_1$  の内部または边上となる。

- (3) (2) と同様にして,  $s+t+u = 1-k$  から  $s \geq 0, t \geq 0, u = 1-k-s-t \geq 0$  となり,

$$\overrightarrow{OP} = k\vec{a} + s\vec{b} + t\vec{c} + (1-k-s-t)\vec{d}, \quad \overrightarrow{OP} - \{k\vec{a} + (1-k)\vec{d}\} = s\overrightarrow{DB} + t\overrightarrow{DC}$$

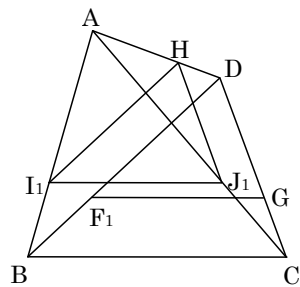
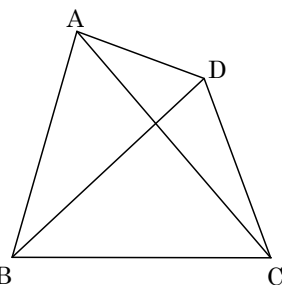
ここで,  $AD, AB, AC$  を  $1-k:k$  に内分する点を, それぞれ  $H, I, J$  とおくと,

$$\overrightarrow{OP} - \overrightarrow{OH} = \overrightarrow{DQ}, \quad \overrightarrow{HP} = \frac{s}{1-k}\overrightarrow{HI} + \frac{t}{1-k}\overrightarrow{HJ} \quad (s \geq 0, t \geq 0, \frac{s}{1-k} + \frac{t}{1-k} \leq 1)$$

よって,  $E(k)$  は  $\triangle HIJ$  の内部または边上となる。

さて,  $k = \frac{1}{2}$  のとき,  $AD, AB, AC$  の中点を, それぞれ  $H_2, I_2, J_2$  とおくと,

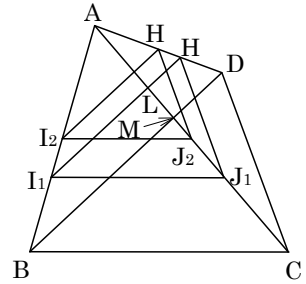
$E\left(\frac{1}{2}\right)$  は  $\triangle H_2I_2J_2$  の内部または边上となる。



すると、 $\frac{1}{3} \leq k \leq \frac{1}{2}$ において、どの  $E(k)$ にも属するよ  
 うな点  $P$  が存在する条件は、 $E\left(\frac{1}{3}\right)$ と  $E\left(\frac{1}{2}\right)$ に共通部分  
 が存在することである。すなわち、対角線  $AC, BD$  の交点  
 を  $M$ ,  $AC$  と  $H_1I_1$  の交点を  $L$  とすると、

$$AJ_2 \geq AL, \quad \frac{1}{2}AC \geq \frac{2}{3}AM$$

よって、求める条件は、 $3AC \geq 4AM$  である。



**[解説]**

平面ベクトルと領域に関する問題です。解答例が書きにくいタイプで、やや冗長な  
 感じもします。また、丁寧な誘導のため、後半になるに従い省略ぎみに記しましたが、  
 それでもボリュームはかなりのものとなっています。

2

問題のページへ

(1) さいころを 3 回投げ  $Q$  が  $x = a$  にある確率を、 $a$  の値で場合分けをして求める。(i)  $a \geq 4$  のとき到達点は  $a \leq 3$  なので、このときの確率は 0 である。(ii)  $a = 3$  のとき $0 \rightarrow 1 \rightarrow 2 \rightarrow 3$  の場合のみより、このときの確率は  $\left(\frac{1}{3}\right)^3 = \frac{1}{27}$  である。(iii)  $a = 2$  のとき $0 \rightarrow 0 \rightarrow 1 \rightarrow 2$ ,  $0 \rightarrow 1 \rightarrow 1 \rightarrow 2$ ,  $0 \rightarrow 1 \rightarrow 2 \rightarrow 2$  の場合があり、これらの確率はそれぞれ  $\frac{2}{3} \cdot \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{3} = \frac{2}{27}$ ,  $\frac{1}{3} \cdot \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{3} = \frac{1}{54}$ ,  $\frac{1}{3} \cdot \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{3} = \frac{1}{54}$  である。よって、このときの確率は  $\frac{2}{27} + \frac{1}{54} + \frac{1}{54} = \frac{1}{9}$  である。(iv)  $a = 1$  のとき $0 \rightarrow 0 \rightarrow 0 \rightarrow 1$ ,  $0 \rightarrow 0 \rightarrow 1 \rightarrow 1$ ,  $0 \rightarrow 1 \rightarrow 0 \rightarrow 1$ ,  $0 \rightarrow 1 \rightarrow 1 \rightarrow 1$  の場合があり、これらの確率はそれぞれ  $\frac{2}{3} \cdot \frac{2}{3} \cdot \frac{1}{3} = \frac{4}{27}$ ,  $\frac{2}{3} \cdot \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{3} = \frac{1}{27}$ ,  $\frac{1}{3} \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{3} = \frac{1}{18}$ ,  $\frac{1}{3} \cdot \frac{1}{6} \cdot \frac{1}{6} = \frac{1}{108}$  である。よって、このときの確率は  $\frac{4}{27} + \frac{1}{27} + \frac{1}{18} + \frac{1}{108} = \frac{1}{4}$  である。(v)  $a = 0$  のときこのときの確率は、(i)~(iv)の結果から、 $1 - \frac{1}{27} - \frac{1}{9} - \frac{1}{4} = \frac{65}{108}$  である。(2) さいころを  $n$  回投げ、 $Q$  が  $x = 0$ ,  $x \neq 0$  にある確率をそれぞれ  $p_n$ ,  $q_n$  とおくと、

$$p_{n+1} = \frac{2}{3}p_n + \frac{1}{2}q_n = \frac{2}{3}p_n + \frac{1}{2}(1-p_n) = \frac{1}{6}p_n + \frac{1}{2}$$

すると、 $p_{n+1} - \frac{3}{5} = \frac{1}{6}\left(p_n - \frac{3}{5}\right)$  となり、 $p_1 = \frac{2}{3}$  から、

$$p_n - \frac{3}{5} = \left(p_1 - \frac{3}{5}\right)\left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} = \left(\frac{2}{3} - \frac{3}{5}\right)\left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} = \frac{1}{15}\left(\frac{1}{6}\right)^{n-1}$$

よって、 $p_n = \frac{1}{15}\left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} + \frac{3}{5}$  である。(3) さいころを  $n$  回投げ、 $Q$  が  $x = 1$  にある確率を  $r_n$  とおくと、 $r_1 = \frac{1}{3}$  で、(2)から、

$$r_{n+1} = \frac{1}{3}p_n + \frac{1}{6}r_n = \frac{1}{6}r_n + \frac{1}{45}\left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} + \frac{1}{5}$$

すると、両辺に  $6^n$  をかけて、 $6^n r_{n+1} = 6^{n-1} r_n + \frac{2}{15} + \frac{1}{5} \cdot 6^n$  となり、 $n \geq 2$  で、

$$\begin{aligned} 6^{n-1} r_n &= 6^0 r_1 + \sum_{k=1}^{n-1} \left(\frac{2}{15} + \frac{1}{5} \cdot 6^k\right) = \frac{1}{3} + \frac{2}{15}(n-1) + \frac{1}{5} \cdot \frac{6(6^{n-1}-1)}{6-1} \\ &= \frac{2}{15}n + \frac{1}{25} \cdot 6^n - \frac{1}{25} \end{aligned}$$

$$r_n = \frac{2}{15}n \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} + \frac{6}{25} - \frac{1}{25} \left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} = \left(\frac{2}{15}n - \frac{1}{25}\right)\left(\frac{1}{6}\right)^{n-1} + \frac{6}{25}$$



$n=1$  をあてはめると,  $r_1 = \frac{2}{15} - \frac{1}{25} + \frac{6}{25} = \frac{1}{3}$  となり成立するので,

$$r_n = \left( \frac{2}{15}n - \frac{1}{25} \right) \left( \frac{1}{6} \right)^{n-1} + \frac{6}{25}$$

### [解説]

設定が微妙に複雑な確率の問題です。(1)では、記述を省略しましたが、樹系図を書いて数えもれのチェックをしています。また、(2)は直接的に求めようかとも思いましたが、無難な漸化式という方針を採用しました。また、(3)は(2)の結果を利用しましたが、漸化式がやや複雑なタイプです。詳しくは「ピンポイントレクチャー」を参照してください。

3

問題のページへ

$$(1) \quad x > 0 \text{ において } f(x) = x - \log x \text{ とおくと, } f'(x) = 1 - \frac{1}{x} = \frac{x-1}{x}$$

すると,  $f(x)$  の増減は右表のようになり,

$$f(x) \geq 1 > 0$$

よって,  $x > 0$  において,  $\log x < x \cdots \cdots \textcircled{1}$

$x$	0	...	1	...
$f'(x)$	×	-	0	+
$f(x)$	×	↘	1	↗

$$(2) \quad g(x) = \frac{1}{\log x} \text{ とおくと, } g'(x) = -\frac{1}{x(\log x)^2}$$

ここで,  $1 < a < c < b$  となる  $c$  に対して,  $\frac{g(b)-g(a)}{b-a} = g'(c)$  から,

$$g(b) - g(a) = (b-a)g'(c), \quad \frac{1}{\log b} - \frac{1}{\log a} = -\frac{b-a}{c(\log c)^2}$$

$$\text{これより, } \frac{1}{\log a} - \frac{1}{\log b} = \frac{b-a}{c(\log c)^2} \cdots \cdots \textcircled{2}$$

$$\text{また, } 0 < a(\log a)^2 < c(\log c)^2 \text{ から, } 0 < \frac{1}{c(\log c)^2} < \frac{1}{a(\log a)^2} \cdots \cdots \textcircled{3}$$

$$\textcircled{2}\textcircled{3} \text{ より, } \frac{1}{\log a} - \frac{1}{\log b} < \frac{b-a}{a(\log a)^2} \cdots \cdots \textcircled{4}$$

$$(3) \quad x \geq e \text{ において, } F(x) = \int_e^x \frac{dt}{t \log(t+1)} - \log(\log x) - \frac{1}{2(\log x)^2} + \frac{1}{2} \text{ とおくと,}$$

$$\begin{aligned} F'(x) &= \frac{1}{x \log(x+1)} - \frac{1}{x \log x} + \frac{1}{x(\log x)^3} \\ &= -\frac{1}{x} \left\{ -\frac{1}{\log(x+1)} + \frac{1}{\log x} - \frac{1}{(\log x)^3} \right\} \end{aligned}$$

$$\textcircled{4} \text{ より } \frac{1}{\log x} - \frac{1}{\log(x+1)} < \frac{1}{x(\log x)^2} \text{ となり, } \textcircled{1} \text{ から } \log x < x \text{ なので,}$$

$$F'(x) > -\frac{1}{x} \left\{ \frac{1}{x(\log x)^2} - \frac{1}{(\log x)^3} \right\} = -\frac{\log x - x}{x^2(\log x)^3} > 0$$

すると,  $x \geq e$  において,  $F(x) \geq F(e) = 0 - \log 1 - \frac{1}{2} + \frac{1}{2} = 0$  となり,

$$\int_e^x \frac{dt}{t \log(t+1)} \geq \log(\log x) + \frac{1}{2(\log x)^2} - \frac{1}{2}$$

### [解説]

微分法の不等式への応用問題です。(1)(2)の誘導で(3)の見通しは良好です。なお、(2)では、不等式の形から平均値の定理の出番です。

4

問題のページへ

(1)  $z = \cos \frac{2\pi}{7} + i \sin \frac{2\pi}{7}$  に対して,  $z^7 = \cos 2\pi + i \sin 2\pi = 1$  となり,

$$z + z^2 + z^3 + z^4 + z^5 + z^6 = \frac{z(z^6 - 1)}{z - 1} = \frac{z^7 - z}{z - 1} = \frac{1 - z}{z - 1} = -1$$

(2)  $\alpha = z + z^2 + z^4$  とするとき,  $\bar{\alpha} = \bar{z} + \bar{z}^2 + \bar{z}^4 = z^6 + z^5 + z^3$

$$\alpha + \bar{\alpha} = z + z^2 + z^4 + z^6 + z^5 + z^3 = -1$$

$$\alpha \bar{\alpha} = (z + z^2 + z^4)(z^6 + z^5 + z^3)$$

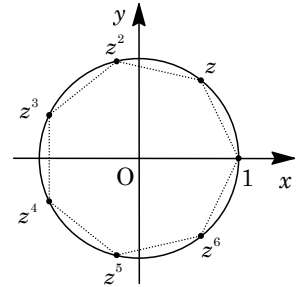
$$= z^7 + z^6 + z^4 + z^8 + z^7 + z^5 + z^{10} + z^9 + z^7$$

$$= 3 + z^6 + z^4 + z + z^5 + z^3 + z^2$$

$$= 3 - 1 = 2$$

よって,  $\alpha, \bar{\alpha}$  は 2 次方程式  $x^2 + x + 2 = 0$  の解より,

$$x = \frac{-1 \pm \sqrt{7}i}{2}$$



そして,  $\alpha$  の虚部は  $\bar{\alpha}$  の虚部より大きいので,  $\alpha = \frac{-1 + \sqrt{7}i}{2}$  である。

(3)  $x^7 = 1$  の解は,  $x = 1, z, z^2, z^3, z^4, z^5, z^6$  より,

$$x^7 - 1 = (x - 1)(x - z)(x - z^2)(x - z^3)(x - z^4)(x - z^5)(x - z^6)$$

そして,  $x^7 - 1 = (x - 1)(x^6 + x^5 + x^4 + x^3 + x^2 + x + 1)$  より,

$$x^6 + x^5 + x^4 + x^3 + x^2 + x + 1$$

$$= (x - z)(x - z^2)(x - z^3)(x - z^4)(x - z^5)(x - z^6) \cdots \cdots (*)$$

(\*)に  $x = 1$  を代入すると,

$$(1 - z)(1 - z^2)(1 - z^3)(1 - z^4)(1 - z^5)(1 - z^6) = 7$$

[解説]

1 の  $n$  乗根に関する超有名問題です。解答例に示した図がすべてと言っても構わない内容です。

5

問題のページへ

- (1) 点  $O(0, 0)$ ,  $A(0, 2)$  を直径の両端とする円周上の点  $Q$  を  $Q(\cos\theta, 1 + \sin\theta)$  とおく。

ただし,  $(\cos\theta, \sin\theta) \neq (0, -1)$  である。

ここで, 直線  $OQ$  の式は  $y = \frac{1 + \sin\theta}{\cos\theta}x$  となり, 直線  $y = 2$  との交点は,  $x = \frac{2\cos\theta}{1 + \sin\theta}$  から,

$$R\left(\frac{2\cos\theta}{1 + \sin\theta}, 2\right), P\left(\frac{2\cos\theta}{1 + \sin\theta}, 1 + \sin\theta\right)$$

そこで,  $P(x, y)$  とおくと,  $x = \frac{2\cos\theta}{1 + \sin\theta} \cdots \cdots \textcircled{1}$ ,  $y = 1 + \sin\theta \cdots \cdots \textcircled{2}$  となり,

$\textcircled{2}$  を  $\textcircled{1}$  に代入して,  $\cos\theta = \frac{xy}{2}$ ,  $\sin\theta = y - 1$  となり,

$$\frac{x^2 y^2}{4} + (y - 1)^2 = 1, x^2 y^2 + 4y^2 - 8y = 0$$

ここで,  $y = 0$  とすると  $(\cos\theta, \sin\theta) = (0, -1)$  となり, 不適である。

よって, 点  $P$  の軌跡  $C$  の方程式は,  $x^2 y + 4y - 8 = 0$  すなわち  $y = \frac{8}{x^2 + 4}$  である。

- (2)  $C$  と  $x$  軸と 2 直線  $x = a$ ,  $x = -a$  によって囲まれる図形は  $y$  軸対称であり, この図形を  $x$  軸のまわりに 1 回転してできる立体の体積  $V(a)$  は,

$$V(a) = 2\pi \int_0^a \frac{64}{(x^2 + 4)^2} dx = 128\pi \int_0^a \frac{1}{(x^2 + 4)^2} dx$$

ここで,  $x = 2\tan\varphi$  ( $-\frac{\pi}{2} < \varphi < \frac{\pi}{2}$ ) とおくと,  $dx = \frac{2}{\cos^2\varphi} d\varphi$  となり,  $x = 0 \rightarrow a$

のとき  $a = 2\tan\alpha$  とすると  $\varphi = 0 \rightarrow \alpha$  となるので,

$$\begin{aligned} V(a) &= 128\pi \int_0^\alpha \frac{1}{(4\tan^2\varphi + 4)^2} \cdot \frac{2}{\cos^2\varphi} d\varphi = 16\pi \int_0^\alpha (\cos^2\varphi)^2 \cdot \frac{1}{\cos^2\varphi} d\varphi \\ &= 16\pi \int_0^\alpha \cos^2\varphi d\varphi = 8\pi \int_0^\alpha (1 + \cos 2\varphi) d\varphi = 8\pi \left[ \varphi + \frac{1}{2} \sin 2\varphi \right]_0^\alpha \\ &= 8\pi \left( \alpha + \frac{1}{2} \sin 2\alpha \right) \end{aligned}$$

すると,  $a \rightarrow \infty$  のとき  $\alpha \rightarrow \frac{\pi}{2}$  となり,  $\lim_{a \rightarrow \infty} V(a) = \lim_{\alpha \rightarrow \frac{\pi}{2}} 8\pi \left( \alpha + \frac{1}{2} \sin 2\alpha \right) = 4\pi^2$

### [解説]

軌跡と回転体の体積についての標準的な問題です。計算は易しめです。

